

川越に行ってみた

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

当社の社員は働き者ばかりで有給休暇を取りたがりません。そこで休日と休日の間の平日を「有給休暇の日」と名付け、勝手に休日にすることにしました。当社は11月決算なので、12月に翌年の「有給休暇の日」が社員に発表されます。

そのため、今年のゴールデンウィークは5月1日、2日は休日。なんと4月29日から5月7日までの9連休です。余裕があれば海外旅行にも行ける長期間。前年の12月に公表されていますから、国内旅行でも飛行機や新幹線、宿泊の予約も十分とれます。

しかし、国内旅行は混雑することは必至。景色ではなく人を見に行くようなものです。そのため例年のゴールデンウィークは農繁期でもあり、私はどこへも行かず家で家庭菜園三昧でした。でも、さすがに9連休は菜園と花壇に明け暮れるには長過ぎる……1日くらいは日帰りでどこかに行きたいと思った時、頭をよぎったのが、以前、テレビ番組で紹介していた江戸時代の街並みが残る「小江戸 川越」でした。

東京から近いにも関わらず、生まれて70年、川越には行ったことがない。ぜひ、ゴールデンウィーク中に行こうと考えて妻に話すと、私も行ったことがないから一緒に行こうということで日程を調整し、5月4日に決定。洗濯や家庭菜園の手入れなど、それぞれの仕事を終えて10時頃に家を出て新木場のセンタービル裏に借りている駐車場に車を置き、地下鉄有楽町線で川越に。有楽町線には池袋行の他に和光市行きの方があることは知っていたので、それに乗るつもりでホームに行くと、なんと入ってきた電車には川越行の表示が。30分に1本、川越まで行く便があることを知りました。これはラッキー！

快速とか急行はないので、各駅停車に揺られて1時間半ほど。12時前には川越に着きました。小江戸の蔵造の街並みは



川越のシンボル

こちらとの標識に従って細い商店街に入ると、歩き辛いほどの人込み。蔵造の街並みに入ると写真を撮るために立ち止まる人が増えるため、ますます交通渋滞は激しくなります。

何とか混雑を抜けて、川越のシンボルである「時の鐘」の建物に到着。狭い道に面しているのに。住んでいる人もいるしコインパーキングを営んでいる人もいるために通行禁止に出来ない。車が来るたびに写真を撮っていた人は押し



ウナギ屋は行列

合いへし合いでよけなくてはならず、大混乱でした。

でも川越市のシンボルを見て写真が撮れたのはラッキー。さらに通りを進んで川越城本丸跡の史跡に向かいます。少し人込みは緩和されたものの、喉が渴いたのでアイスコーヒーが飲みたいとカフェを探しても、どこも行列。仕方なく歩き続けて本丸跡へ。でも期待に反してここに本丸があったのか、こんな城で街が守れたのかという建物。それでも川越の観光名所の一つなので大変な人だかり。それにしても、外国人観光客が少ないのには拍子抜け。やはり鎌倉などに比べ、川越は外国人観光客にとってはマイナーなのだなと実感しました。

次に観光スポットの一つ、喜多院という神社を見てから駅の方に向かいます。市内巡回バスを使う予定が満員で乗れなかったため、すべて徒歩。なんと、人力車もあり横をすり抜けて行きますが、それに乗るのも行列でしょう。それなら歩いた方が早い。

お腹が空いたのでウナギ屋を探したのですが、老舗の店は全て「本日の販売は終了」の貼り紙が……仕方なく駅に向かう道でカフェを探したのですが、どこも行列。幸い、駅に近いカウンターカフェに空席があったので、ようやくアイスコーヒーにありつけました。歩き疲れて、たった一杯のコーヒーがこんなに美味しいと感じたのは久しぶり。

駅に行くと、新木場行直行の電車は出たばかり。次の次の東武線の急行に乗ったら、和光市駅で乗りそこなった新木場行に乗ることが出来ました。そのおかげで5時半には帰宅出来ました。半日の旅で時間的には短かったけれど、体感的には長く充実した一日でした。川越に行ったことのない方には、お薦めの日帰り旅行だと思います。ゴールデンウィークでなければこれほど混雑してはいないと思いますが、ウナギが食べたいなら早めの昼食を狙う必要はありますが。

昔は川を遡上するウナギがこの辺でも取れて川越街道を旅する人たちのエネルギー元になっていたのですが、今はおそらく養殖。それなら川越で食べなくても良いとは思いますが、やはり川越名物と言えばウナギと団子。思い出作りには欠かせない一品ではあります。

帰宅してスマホの万歩計を見ると約2万歩。良い運動でした。それにしても疲れた……